

田舎暮らしを楽しむ

(1)

佐藤 彰啓

田舎暮らしがブームである。都会では、「定年後の田舎暮らし」が身近な話題となつて久しい。民間の調査によれば、都会のサラリーマンの約四割が「条件が許せば、田舎で暮らしたい」と考えているという。

自然豊かな地域での暮らしは確かに魅力的だ。しかし、それなりの心構えと準備も必要である。単なるあこがれやブームに乗って田舎に移り住んだものの、うまくいかなくて都会にまた戻ってくる人も少なくない。

埼玉県から静岡

明確な生活イメージ持つ

心構え

県に移り住み、三年で都会に戻つたAさん(64)は、伊豆半島の海の見える別荘地の住宅を選んだ。「海を眺めながらゆったりと暮らすこと」が夢だったからである。

しかし、実際に暮らしてみると、期待していた住環境とは大きくかけ離れていた。その家は眼下に海を望む高台に立っていたが、別荘族の若者がやって来て夜遅くまで騒がしい。秋になれば人々は一斉に去り、雨戸の閉

まつた家ばかり。その地が定住者に向かないということが分かるのに、それほど時間はかからなかった。

別荘地は、もともと都会の人々の休養とレジャーの場所である。非日常的な空間でコミュニケーションは育ちにくい。海を眺めて暮らすという漠然としたあこがれで場所選びをしたことをAさんは今、後悔している。

田舎暮らしは景勝地のホテルに泊まるのとは違う。そこでどんな暮らしを実現したいのかが大切だ。畑を耕して自給自足をするのか、海の近くで釣り三昧(ざんまい)の生活を送るのか、あるいは陶芸などの創作活動にいきむのか、目的によって選ぶ地域や物件も異なってくる。

田舎暮らしを成功させるには、田舎での暮らしのイメージや目的をはっきりさせることである。

(ふるさと情報館代表)

地方の物件情報などを扱う雑誌の発行者である筆者が、田舎暮らしを成功させるコツを紹介します。



緑豊かな田舎の生活にあこがれる人は多い